

令和4年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は、「獣医学術奨励賞」は日本獣医師会雑誌の令和2年8月号（第73巻第8号）から令和4年7月号（第75巻第7号）に掲載された原著・短報を対象に、「獣医学術学会賞」は第40回獣医学術学会年次大会（令和4年度）において発表された地区学会賞の中から、「獣医学術功労賞」は推薦のあった永年の功労の業績の中から選考委員会において厳正に審査され、以下のとおり受賞者及び受賞研究業績を選考した。また、後日、本賞（賞状）及び協賛会社（日本全薬工業(株)、共立製薬(株)、日本ハム(株)）からの副賞（研究奨励金20万円）がそれぞれ受賞者に授与される（令和4年度の獣医学術賞の発表は、第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会（令和4年度）において実施された。）。

令和4年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

【産業動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

ダイレクトPCR法による牛伝染性リンパ腫感染源リスク牛の検出

宮本真智子（北海道十勝家畜保健衛生所），他
 〈選考理由〉 本論文は、牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）感染源リスクの高い牛を検出するため、全血を用いたダイレクトPCR法（希釈D-PCR）を設定し、BLV-CoCoMo-qPCR法によるプロウイルス量及びECの鍵の結果と比較したものである。希釈D-PCR法は中リスク以上の感染牛を検出する精度が高く、BLV陽性率の高い農場におけるリスク牛の選別に活用可能であることを明らかにし、簡便で安価な検査法として野外での活用が期待されることを示したものであることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

豚呼吸器複合病に関連する16種の病原体を検出するマルチプレックスRT-qPCRの設計と野外応用

五嶋祐介（岩手県北家畜保健衛生所），他
 〈選考理由〉 養豚現場で問題となっている豚呼吸器複合病（PRDC）について、16種類の病原体を網羅的に検出するマルチプレックスRT-qPCRを設計し、それを野外応用して効果を検証した研究である。鼻腔スワブやロープ法等によるサンプルから多種の病原体の侵入状況を効率的に把握することが可能で、農場における衛生対策の実施やワクチン接種時期の検討等に有効なデータを提供できることから、獣医学術学会賞に相応しい研究として推薦する。

日獣会誌 76 78～80 (2023)

〔獣医学術功労賞〕

牛、豚の生産性向上のための繁殖生理及び繁殖障害に関する研究

津曲茂久（元日本大学・教授）

〈選考理由〉 津曲茂久氏は、家畜の生産性を向上させるため、牛の脂肪肝と卵巣疾患との関連性や胎子発育・分娩発来の機構、豚の卵巣疾患の診断・治療法に関する研究に従事し、多くの研究成果を学術雑誌に公表した。また、現在でも企業の学術担当役員を務めるなど、獣医学術の発展と後進の指導に尽力している。さらに同氏は、日本獣医師会の各種委員会委員、日本産業動物獣医学会の理事や幹事として、本会と本学会の運営に多大な貢献をされたことから、獣医学術功労賞の授与が相応しいと判断した。

【小動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2感染により呼吸器症状を呈した飼い猫の1例

山田恭嗣（やまだ動物病院・北海道），他

〈選考理由〉 本論文は、1症例ではあるが、日本初の飼い猫の重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2（SARS-CoV-2）感染を臨床面とウイルス学的観点から科学的に追求して発表したことは、今後の臨床面における同感染症の飼い猫に対する診断や治療などに多くの情報をもたらすものと考えられ、飼い主から飼い猫への感染の可能性を考慮した公衆衛生上の問題を提起した点が評価されることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

犬尿中コルチゾール／クレアチニン比の基準値の確立とクッシング症候群の診断への応用

永田矩之(北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院), 他
(選考理由) 尿中コルチゾール／クレアチニン比(UCCR)は犬のクッシング症候群の診断において簡便かつ信頼性の高い検査であるが, 国内では基準値が確立されておらず, 臨床的有用性は高いとはいえない状況であった。本研究は, robust法を用いて健常犬からUCCRの基準値を確立したうえで, ストレスの少ない自宅採取尿を用いることによりUCCRがクッシング症候群の診断に有用な検査であることを示した。また, 基準値を下回る場合にはほとんどの症例でクッシング症候群を除外できるだけでなく, カットオフ値を高く設定することにより本症を確立するための検査としても有用である可能性を示し, 今後の研究に大いに役立つと考えられたことから, 獣医学術学会賞に相応しい研究として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

犬フィラリア症の早期診断法及び予防薬の開発に関する研究

多川政弘(日本獣医生命科学大学・名誉教授)
(選考理由) 多川政弘氏は, 長年にわたり臨床獣医学領域で, おもに小動物外科学分野の幅広い研究に携わってこられた。その内容は, 犬フィラリア症から, 麻酔, 消化器外科, 泌尿器外科, 整形外科, 脳神経外科, 再生医療など多岐にわたり, その研究を通して臨床獣医学教育に精力的に取り組んでこられた。同氏は, これらの活動を基に日本獣医麻酔外科学会・会長, 日本動物看護学会・理事などを務められ, 日本獣医師会においては, 長年, 日本小動物獣医学会地区(東京)学会長, 日本小動物獣医学会理事などを歴任され, 獣医師会の学術活動や運営に大きく貢献をされたことから, 獣医学術功労賞の授与が相応しいと判断した。

【公衆衛生部門】

〔獣医学術奨励賞〕

野生動物でのオーエスキー病ウイルスの異種間伝播

南 昌平(山口大学), 他
(選考理由) 本論文では, 近畿地方で死亡したアライグマ2頭からオーエスキー病ウイルス(PRV)を分離するとともに, 全ゲノム解析により, 分離株はgE遺伝

子を保有していたことから, ワクチン株ではなく野外株であることを明らかにした。さらに, 同地域のイノシシ111頭とアライグマ61頭の血清中和試験の結果から, PRVはイノシシからアライグマへの異種間伝播であったことを示した。本論文の内容は, わが国の野外におけるオーエスキー病の宿主域拡大の危険性を喚起するものであり, 本症の疫学上重要な知見を含んでいると判断されたことから, 獣医学術奨励賞として推薦する。

〔獣医学術学会賞〕

火山灰土壌を用いた水質浄化技術開発に向けた研究

谷口喬子(宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター), 他
(選考理由) 本研究では, 南九州に堆積するアカホヤ火山灰土壌が腸管出血性大腸菌をはじめとしたさまざまな細菌やウイルスの吸着性能に優れていることを*in vitro*の試験で見出している。さらに, このアカホヤ土壌の微生物吸着特性を利用した実証試験として, 牛舎排水流入調整池内にこの浄化設備を設置し, 牛舎排水中の大腸菌吸着能を調べるとともに排水浄化の可能性について検討を行った。本研究はこれまで着目されていなかったアカホヤ土壌の微生物吸着能を明らかにしただけでなく, 新たな水質浄化技術の開発に繋がる応用研究としての可能性が期待されることから, 獣医学術学会賞に相応しい研究として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

滋賀県におけるボツリヌス食中毒予防に関する研究

林 賢一(元滋賀県衛生科学センター・所長)
(選考理由) 林 賢一氏は, 昭和48年に滋賀県で初めて発生したハスずしによるE型ボツリヌス食中毒の発生要因を解明する過程で, 塩漬け後の魚と米飯を漬け込む際にボツリヌス菌に汚染された場合にのみボツリヌス毒素産生が起こることを明らかにした。また, 県内で広く食されている鮒ずしは, ハスずしに比べ発酵期間が半年以上と長いことから, 鮒ずしではE型ボツリヌス菌は死滅するとともに, 滋賀県内の琵琶湖にはC, D, E及びF型ボツリヌス菌が分布していることも明らかにした。林氏は日本獣医師会の公衆衛生委員会委員を平成25年度から令和4年度まで務めており, 本会の運営並びに滋賀県の公衆衛生の向上に多大な貢献をされたことから, 獣医学術功労賞を授与するに相応しいと判断した。



令和4年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞者及び協賛各社

左から宮本真智子，五嶋祐介，津曲茂久，山田恭嗣，永田矩之，小倉憲夫（日本全薬工業㈱取締役副社長），
藏内勇夫（(公社)日本獣医師会会長），鈴木正章（共立製薬㈱執行役員 CA 営業本部長 MBA），岩間 清（日本
ハム㈱中央研究所所長），多川政弘，南 昌平，谷口喬子，林 賢一（敬称略）